

西三河生態系ネットワーク協議会

現状と課題

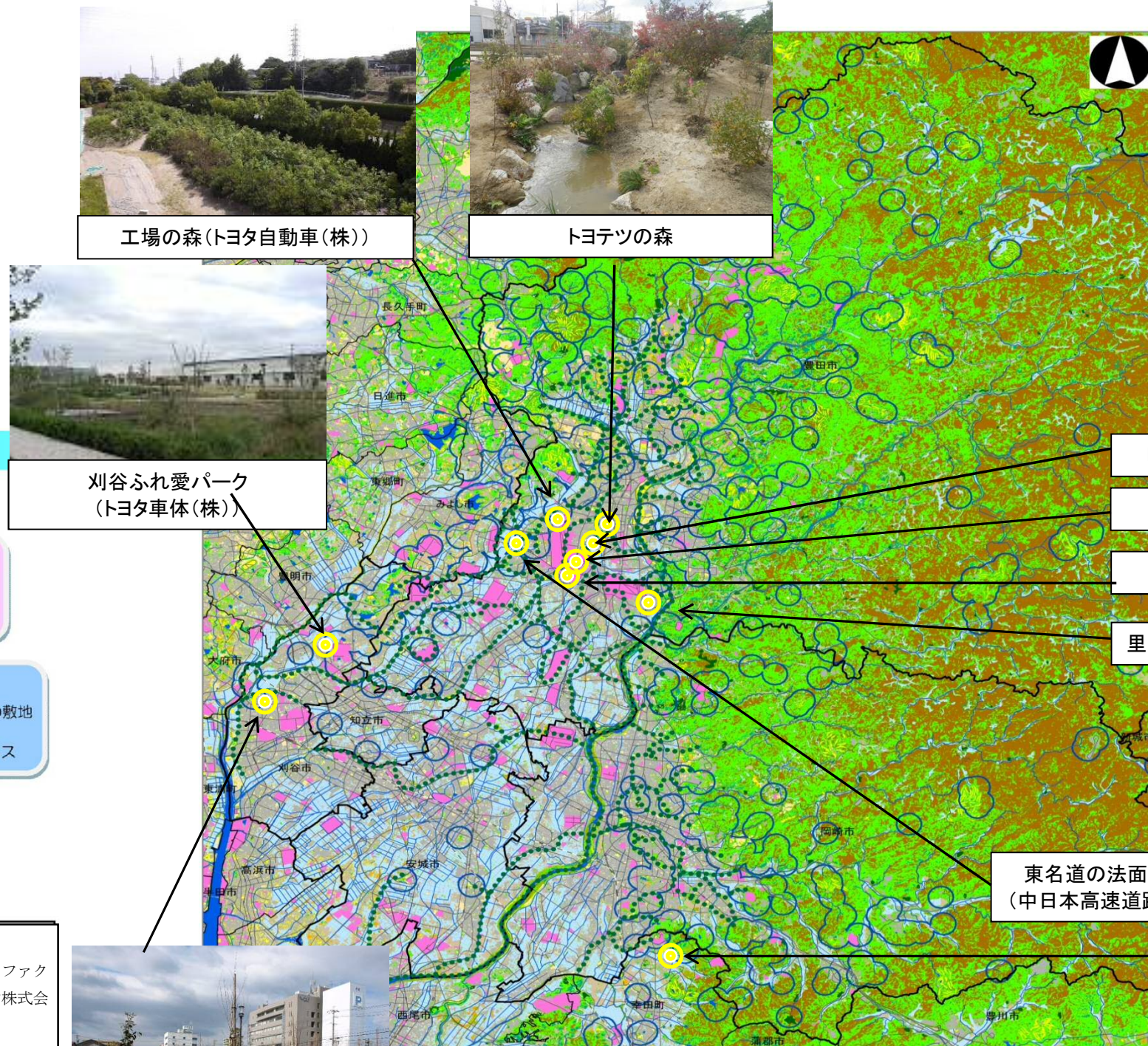
- 自然環境**
- 東海丘陵要素植物群などの危機
 - 二次林の常緑樹林化
 - スギ・ヒノキ人工林の放置
 - 竹林の拡大
 - 耕作放棄水田の増加
 - 生物の生息生育空間の喪失や減少、分断化
 - 外来種の増加

- 新たな里山の姿の検討
 - 効率的・効果的な自然の再生
 - 里山の保全管理を行う
 - 新たな経済的な仕組みの検討
- 課題** ●ものづくりと自然環境の調和・調整

- 社会環境**
- 活発なNPO活動
 - 国内でも有数の産業の集積と先進的な環境対策
 - 進んだ環境行政
 - 人口減少、高齢化が進む山間地域
 - 中山間地域における開発

テーマと基本方針

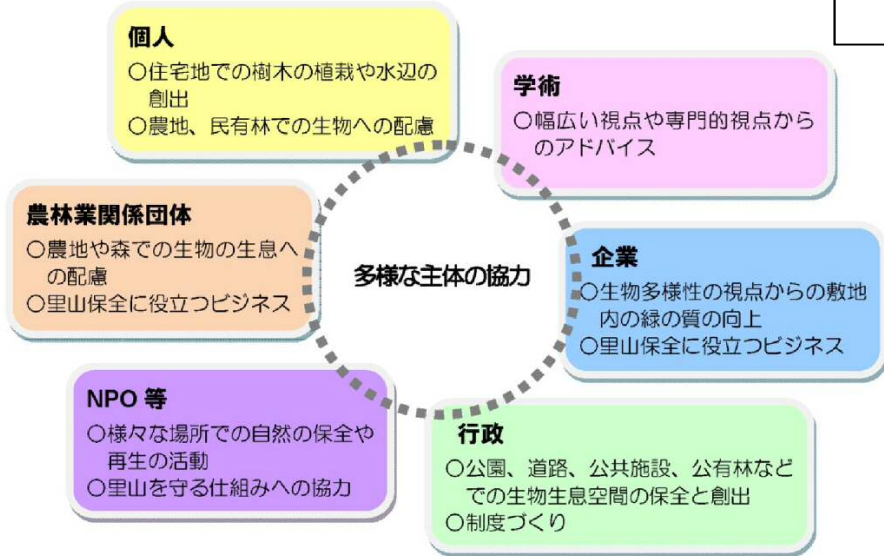
最先端のものづくりと最先端のエコロジーが好循環する暮らしを目指して



基本方針(検討のポイント)



実現に向けた枠組みと役割分担



- 【学術】** 中部大学、名古屋大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知教育大学
- 【企業】** トヨタ自動車株式会社、中日本高速道路株式会社、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社幸田サイト、三五コーポレーション株式会社、トヨタ車体株式会社
- 【農業関係団体】** あいち豊田農業協同組合、豊田森林組合、生活協同組合コープあいち
- 【NPO等】** ビオトープ・ネットワーク中部、名豊エコロードを推進する会、国際ロータリー第2760地区社会奉仕委員会、NPO法人愛知生物調査会、公益財団法人日本野鳥の会、NPO法人日本ビオトープ協会、琴平ふくろう谷の会、NPO法人アースワーカーエナジー、NPO法人みよしの自然環境を守る会、S&Sクリエイティブ
- 【行政】** 岡崎市、刈谷市、豊田市、安城市、知立市、幸田町、愛知県 (30団体)

経済と自然が両立する生態環境流域へ

経済活動が自然の保全に役立ち、自然を守ることが企業や地域経済に利益となるようなしくみがある地域
地域の生態系の持続可能な利用の範囲の中で、暮らしや生産が営まれる地域